

河内長野市の歴史と魅力

KS
DP 関西大学
戦略的研究基盤
団地再編
リーフレット
Re-DANCHI leaflet

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

DECEMBER
2013
VOL. 144



図 1. 高野街道¹⁾



図 2. UR 南花台団地²⁾



図 3. 国宝観心寺金堂と境内³⁾



図 4. 滝畑のキャンプ場⁴⁾

河内長野市の概要

河内長野市では、S40年代以降に開発されたニュータウンや団地が多く、今後の再生・再編が課題となっている。中でもUR南花台団地と南花台地域は市内でも最も人口が多く、市にとって重要な課題となっている。これらの再編を考える上で重要な要素となる河内長野市の「自然」「歴史」「教育」について紹介する。

河内長野市は大阪府南部に位置し、奈良県・和歌山県に接している（図5）。南海電車で大阪都心の難波駅から30分で通える比較的立地が良い地域である。H25.9月末の人口は112,446人で、大阪府内の43市町村の中で20番目、面積は109.61km²と3番目である。面積が小さい大阪府の市町村の中では人口密度が低く、広々と暮らせる町である。「ニュータウンのまち」として認識されているが、市内には中世以降の歴史文化遺産も多くあり、新旧が重なる

地域でもある。また団地と旧集落の子供達と同じ小学校に通うことで、地域間の交流も生まれている。しかしこれは比較的小規模な団地であり、南花台などの規模の大きな地域は、周辺との関係性が弱い。ニュータウン開発前の本市人口は4万人程度だったが、S40～50年代にニュータウン開発が活発化し、全国でも有数の人口伸び率となった。H12年度に人口が約12万人とピークとなったが、その後1万人ほど減少し、現在は人口減少率が高くなっている。それと同時に人口年齢層では65歳以上が27%を占め、高齢化も進んでおり、人口減少率・高齢化率は府内で最も高い市である。そのため河内長野市では新しい試みとして、市だけでなくUR・南海電車と連携し家賃補助等のPRを行うなど、若い世帯に入居してもらえる取り組みに力を入れている。



図 5. 河内長野市の位置⁵⁾

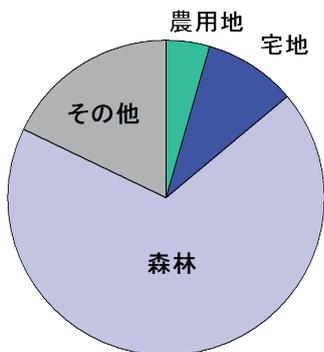


図 6. 河内長野市の土地利用⁶⁾

1. 河内長野市の自然

市域面積の約7割が森林であり(図6)、山や緑などが多く、大阪都心から30分の距離に大自然が広がっている。四季も感じられ、11月頃になると紅葉を見るためにダムや寺を中心に多くの観光客が訪れている。また大自然の中だけでなく、住宅街などの中でも四季を感じることができることも大きな魅力である。河内長野市ではこのような「自然」を魅力とし、「奥河内」という地域ブランドを打ち出している。これは河内長野市を中心とする大阪南東部の緑豊かな山麓エリアを指し、豊かな自然と多くの緑やきれいな水に恵まれた地域である。「ちかくて、ふかい 奥河内」をキャッチフレーズに、奥河内には気軽に本格的なアウトドアが楽しめるスポットが多く存在する。

奥河内には水に親しめる場所として滝畑がある。大阪府内ではあまり見られない滝のあるバーベキュー場であり、バーベキューをしている間に水遊びができる魅力がある(図4)。また沢登りができるなどの魅力もある(図8)。山ならば新日本100名山にも選ばれている岩湧山がある(図

9)。新日本100名山は中高年でも登りやすい山が選ばれており、岩湧山では子供からお年寄りまで世代に関係なく登山客が多い。また茅ぶき屋根などで使われているすすきの質がいいことでも有名で、11月頃はすすきの風景が美しく、全国の茅ぶき職人たちが、研修に訪

れる「滝畑ふるさと文化財の森センター」という施設もある。河内長野市ではこの奥河内の大自然を生かした「奥河内 SEA TO SUMMIT」と呼ばれるスポーツイベントを開催している(図10)。これは滝畑ダム湖から岩湧山頂上までをカヤック、自転車、登山の3種目で目指すものである。自然の循環を体験するスポーツを通じて、自然の大切さについて考える機会となっており、また地域の人々と多くの来訪者を交えて、取り巻く自然を再認識するものとして開催されている。この他にもスポーツ関係では、日本に3つしかない自転車テーマパークの関西サイクルスポーツセンターがある。他にも、子供連れの家族に人気があり、CM・映画撮影にも使われる珍しい施設もある。川や山だけでなく自然に囲まれた中に、珍しい施設などを有していることも奥河内の特徴である。

現在は、奥河内らしい暮らし「奥河内スタイル」という奥河内の自然豊かな環境を活かした暮らしや子育てについてPRを始めている。

2. 河内長野市の歴史

河内長野市には6件の国宝と77件の重要文化財があり、府内では大阪市に次ぐ数を有している(図11)。しかもこれらは博物館に収蔵されて

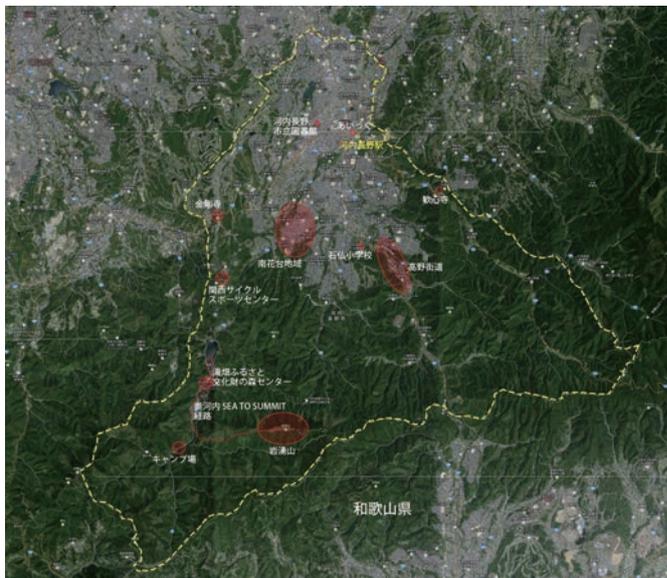


図 7. 河内長野市全域図⁷⁾



図 8. 滝畑の沢登り⁸⁾



図 9. 岩湧山⁹⁾



図 10. 奥河内 SEA TO SUMMIT¹⁰⁾

いる訳ではなく、地域社会の中で受け継がれてきたものが多いことが河内長野市の特徴となっている。また残っていること自体が貴重な民家も存在する。観心寺・金剛寺には、中世の景観がほぼそのまま残っている状態を見ることができる(図1)。しかし、市内全域に文化財があるわけではなく、2大寺周辺や高野街道沿いに集中し、偏りがある。他にも中世(平安時代後期～室町時代)の遺跡がいたるところから出てくる。近世(江戸時代)近代は、温泉街の観光地として栄え、宿場町などが広がっていた(図3)。しかし戦後は大阪のベットタウンとなり、観光地としての認知が薄れていった。

観心寺は奥河内の観光地のひとつであり、平成25年度には、奥河内SEA TO SUMMITに合わせてライトアップされ、新たな文化財の魅力をつくり出している(図12)。また高野街道は古くから宿場町として栄え、文化財が集中している。近年は、河内長野駅前の伝統的な造り酒屋酒蔵(西條合資会社旧店舗主屋)がある地域において、住民自らが景観を良くしていく取り組みが進められている。その中に「杉玉づくり」がある(図13)。杉玉は、本来新しいお酒ができたときの目印として作られ酒蔵前に飾られるものだが、現在はまちの人々で作られ、酒蔵だけでなく一般の家の玄関前にも飾り、杉玉のあるまち並みの景観をつくり出している(図14)。また無電柱化・石畳舗装などの景観整備事業(高野街道～いにしへのみち復活プロジェクト～)も実施され、現在は観光マップも作り観光地としても再興させようと活動している(図15)。

3. 河内長野市の教育

市内の小学校では、文科省から特別校に指定される教育を行っている。例えば英語教育を早くから取り入れたり、衛星回線を通じて海外の子供

指定区分	国指定					
	国宝	重要文化財	重要無形文化財	史跡		
有形文化財	建造物	1	15			
	美術工芸品	絵画		7		
		彫刻	1	36		
		工芸品	1	10		
		書跡・典籍・古文書	3	9		
		考古資料				
		歴史資料				
無形文化財				1		
記念物	史跡				2	
	名勝					
	天然記念物					
有形文化財	建造物					
小計		6	77	1	2	
		83				

図11. 河内長野市の文化財の数¹¹⁾



図13. 地域住民による杉玉づくり¹²⁾

達との交流や電子黒板などの最新技術を取り入れたりしている。また、グラウンドを一面芝生にし、山に囲まれた大阪府内としては珍しい学校もある(図16)。その他にも教育と歴史を絡め、小学生が大学生と一緒に「城攻め」を題材にした体験授業を行った。さらに、児童本が多く収蔵されている明るく広々とした河内長野市立図書館(図17)や子供・子育て総合施設「あいっく」などの施設も充実している(図18)。あいっくは、内装や子供が遊ぶ遊具などに地元産木材である河内材が使われており、使用料が無料であることから市外から電車で来られる方がいるほど人気である。また子供向けの施設だけではなく、大人向けの生涯学習として河内長野市民大学「くろまる塾」を開校している(図19)。くろまる塾とは河内長野市民や市内に通勤、通学する人で高校生以上なら誰でも入学でき、行政や民間が学習主催者として実施する講座を受講できる。そしておおむね1時間の講座を1単位、2時間の講座を2単位とし、受講時間に応じて単位を取得で

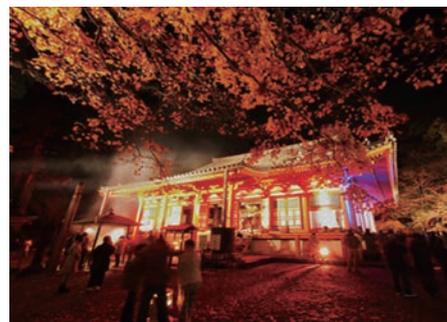


図12. ライトアップされた観心寺¹³⁾



図14. 高野街道¹⁴⁾



図15. 高野街道が載る三日月宿場マップ¹⁵⁾

き、一定単位(200、400、600単位)に到達すると、学位が取れる。そしてくろまる塾で得た知識を、ボランティア活動など、様々な方面で活かせることができる。また小中学生版「くろまるキッズ」も開校されている。このようにさまざまな教育に力を入れ、大阪府内一番の教育都市を目指している。子供から高齢者まで上質な学習環境が整っていることは子育て世帯や河内長野市で暮らす人にとって大きな魅力である。



図 16. 石仏小学校の芝生の運動場¹⁶⁾



図 18. 子供・子育て総合施設「あいつく」¹⁸⁾



図 17. 河内長野市立図書館¹⁷⁾



図 19. くるまる塾「千代田工場見学会」¹⁹⁾

4. 河内長野市と南花台の現状

現在河内長野市の人口は、ピーク時より1万人ほど減少しているが、これからも人口減少が続き、30年後には25%減少すると言われている。それと同時に高齢化や少子化もますます進むことが予想され、対策を考えなければならない。このような問題がある中でUR南花台団地は一般(戸建て)・公団を含め3500世帯余りで河内長野市の全体の7.6%を占めている。また人口構成比を比較すると全市に比べ高齢層が少なく、0～14歳までの子供層が高い数字が出ている(図20)。これはUR南花台団地が若い世帯にとって入居しやすい住宅だということを示しており、河内長野市にとって貴重な住宅である。また周辺に幼稚園・小学校・中学校・スーパーなどの利便施設も多く、周囲の山などに囲まれた中で暮らせる

ことが理由のひとつだと考えられる(図21)。しかし、周辺との関係性が弱いという問題もあり、これからのように周辺地域と関わりをもつ暮らしができるか考えていくべきである。現在の南花台での暮らしは、多くの人は大阪都心へ働きに出ていると考えられるが、自宅に帰ると閑静な住宅地の中で、山々に囲まれた自然を感じることが出来る良好な居住空間を満喫することが出来る。これからは団地や市域の中だけで考えず、近隣地域の中でどの様な魅力があるのかを考えていくべきである。また行事や歴史的な建物等の紹介だけではなく、現在住んでいる人が気付いていない魅力や、暮らす上での南花台の魅力を考え、南花台に住みたい、住み続けたいと思ってもらえるような提案を考えていかなければならない。

市全体に占める人口

	河内長野市(全体)	南花台団地(一般)	南花台団地(公団)
0-14構成比	13,283	440	295
15-19構成比	5,725	287	149
20-39構成比	24,032	1,361	463
40-64構成比	39,265	2,401	755
65-74構成比	17,079	1,094	226
75以上	13,500	607	217
合計	112,884	6,190	2,105

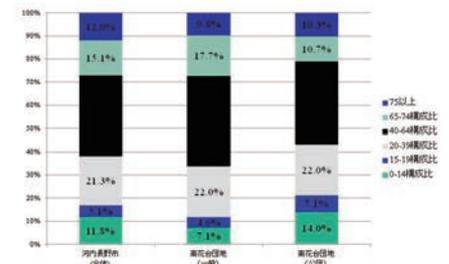
H25.3末時点。南花台(公団)には、一部民間マンションを含む。

市全体の世帯数との比較

	河内長野市(全体)	南花台(一般)	南花台(公団)
世帯数	47,156	2,395	1,181
構成比	100.0%	5.1%	2.5%

H25.3末時点。南花台(公団)には、一部民間マンションを含む。

人口構成比の比較



H25.3末時点。南花台(公団)には、一部民間マンションを含む。

図 20. 市と南花台団地比較データ²⁰⁾



図 21. 自然に囲まれている南花台団地²¹⁾

出典

- 1)～6),8)～21) 河内長野市
- 7)Google Earth に加筆

『河内長野市の歴史と魅力』

レクチャー：小池 悟史 (河内長野市まちづくり推進室)
太田 宏明 (河内長野市教育委員会)
記録・作成：近藤 拓也 (関西大学大学院 博士前期課程)
倉知 徹 (関西大学 先端科学技術推進機構)

(講演：2013年10月30日)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究(平成23年度～平成27年度)」によって作成された。

発行：2013年12月

関西大学
先端科学技術推進機構 地域再生センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室
Tel : 06-6368-1111 (内線:6720)
URL : <http://ksdp.jimdo.com/>